

令和6年度第1回佐久市立中学校運動部活動の地域移行協議会 会議録

日 時：令和6年6月3日（月）

午前10時～12時

場 所：佐久市役所 南棟3階会議室

出席者

委員（19名）

原 拓男	識見者（アテネオリンピックバスケットボール競技・女子選手団長、 元教育長職務代理者）
宮島 卓朗	佐久市立浅間中学校 校長
塚田 直道	佐久市立野沢中学校 校長
北垣内 博	佐久市立中込中学校 校長
芝野 崇	佐久市立東中学校 校長
堀籠 英和	佐久市立臼田中学校 校長
佐藤 元昭	佐久市立浅科中学校 校長
飯島 廣樹	佐久市立望月中学校 校長
伊坂 倉一	（特非）佐久市スポーツ協会 会長
大塚 寛美	佐久市スポーツ推進委員 会長
篠原 一郎	（特非）もちづき総合型クラブ 理事長
荻原 和章	（特非）もちづき総合型クラブ（学校運動部活動指導士）
土屋 岳	岸野スポーツクラブ 会長
原 暁生	佐久平バレーボール協会 総務委員長
平林 照義	佐久バスケットボール協会 副会長
沼田 浩人	佐久サッカー協会（（特非）佐久市スポーツ協会 サッカー部 部長）
小金澤茂喜	佐久地区剣道連盟 副会長
小林 英明	佐久レーレルコール 事務局長
由井 正史	長野県観光スポーツ部スポーツ振興課 現地駐在スポーツ指導主事

事務局（11名）

吉岡教育長

工藤社会教育部長、佐々木学校教育部長

スポーツ課 木内課長、大島スポーツ推進係長、神津

文化振興課 中沢課長、武石文化振興係長

学校教育課 小林主幹指導主事

スポーツ協会 吉澤事務局長、井出

オブザーバー（４名）

東信教育事務所生涯学習課 飯嶋課長

長野県教育委員会事務局保健厚生課学校体育係 出口係長

長野県教育委員会事務局保健厚生課学校体育係 和田指導主事

長野県スポーツ協会 山崎クラブアドバイザー

1 開 会

2 あいさつ 教育長より

3 自己紹介

4 委員選任及び正副議長の選出について

5 協議事項

(1) 令和５年度第３回佐久市立中学校運動部活動の地域移行協議会の経過確認

【資料１】

(2) 佐久市部活動地域移行の方針について

【資料２、資料３-１、３-２】

(3) 部活動地域移行の現状について【資料４】

(4) 質疑・意見交換

(1) 令和５年度第３回佐久市立中学校運動部活動の地域移行協議会の経過確認

資料１について事務局より説明

(2) 佐久市部活動地域移行の方針について

資料２、資料３-１、３-２について事務局より説明

【委員】

休日部活動について、大会運営がどうしても関係してくるかと思うが、教師側がこれで抜ける状況になったときの運営の方向をどう考えているか。

【委員】

資料３-１のⅡ(3)活動内容のところに、「中体連を含む大会やコンクールへの参加は、地域クラブや生徒の判断による」とあり、参加の判断はこれでいいと思うが、大会運営はい

ったい誰がやり、どうスケジューリングしていくのか。これからは中体連自体がなくなっていく方向だと思うが、そうなれば大会運営もやっていくことを、どのように周知するのか。

【事務局】

大会については、中体連の現状は顧問の先生方がよくご存知かと思う。最近行われた剣道の大会では、合同チームや社会体育団体の単位でチーム参加ができるように要項改正されているので、周囲の状況が少しずつ変わってくるのに合わせて、地域移行の方も進めていく。大会運営がいつまでにこうなりますというところは情報不足でお示しできず、状況に応じてということしか現段階では申し上げられない。

【オブザーバー】

大会運営のことについては、長野県中体連も日本中体連の方も検討中。日本中体連では令和8年度までは全中をやるとしており、令和9年度以降については、6月の日本中体連の会議で方向性が示されると想定している。長野県中体連の方も、プロジェクトチームを作り大会運営のあり方について考えているが、例えばソフトボール、体操、新体操、水泳などは、これまで教員は審判というよりは受付のような役割をやってきたので、競技団体でもかなり運営できると思う。バレーボール、バスケットボール、サッカーなどについては、先生達がいなくなると大会が運営できるかどうか不安。昨年度の夏の各4地区（東信、南信、中信、北信）の大会では、クラブの出場がおよそ50だったが、この令和6年度の夏の4地区の大会では、160を超えるクラブチームが参加する。クラブチームが中体連の大会開催に参加する条件としては、「運営にも積極的に携わること」となっているので、当面は学校の先生方とクラブの方々に運営をして、徐々にクラブの方々に運営できるような仕組みになればと思う。長野県スポーツ協会を通して、各競技団体にもお願いしていかないと中学校の選手の活躍する場がなくなるので、危機感を抱いている。

【委員】

休日部活動が段階的に地域移行するというのが方針の想定だが、実際には平日の部活動から変えて、大会運営に関しては教員が動いていかなければ運営自体が成り立たなくなるのではないか。もし先生方を土日から排除するとおそらく大会が止まるので、先生がその所属団体に入るか、保護者が大会運営の手伝いをするしかない。子供たち、先生方、保護者の方、地域の皆様の「ウェルビーイング」を考えなければいけない。このまま進んでいったら、先生方の負担は、逆にこの数年間は増大すると考えている。繋がなければいけないし、大会運営にも出なければいけないので、モデルを作るのは大賛成だが、一気に変える方向を考えていくべき。子供たちのウェルビーイングを考えたときも、指導者がいろいろな状況で変わり、平日は先生、休日は地域の方となると子どもたちも混乱してしまう。

【オブザーバー】

国の方もまずは休日からと言っているが、最終的な目指す形は平日も含めてとしているので、平日の方もあわせて考えていただきたい。特に土日というと、練習というよりも練習試合やリーグ戦がある中で、平日は学校の先生が指導していて、練習試合で成果を試し

ながら次のメニューを考えていくとすると、指導者間で連絡をしっかりと取らないと効果的なトレーニングもできない。トレーニングはやはり試合の中から切り出したものだと思うので、そのようにご検討いただけるとよい事例となりありがたい。

【会長】

実際の試合の運営について、少し詳しく教えてもらいたい。

【オブザーバー】

本当に各競技団体でバラバラ。中体連の水泳、新体操、バドミントンなどの大会は教員というよりもクラブの方、例えば水泳と言ったらほとんどスイミングクラブの方々で審判をやっている。特にバドミントンは今回クラブ化が多くされたが、元々学校部活動よりも、クラブや地域移行になじみやすい形だったので、大会運営などは他の競技よりもうまくいくと思っている。学校の部活動に頼っていて、教員が審判資格を取って運営していたバスケットやバレーボールなどについては、大会運営は教員がしばらく関与しないと難しいのではないか。

【委員】

長野市で、ある種目をやっている方から話を聞いたが、長野市は2、3年後には部活動をなくすので、一気に地域移行をお願いします、と頼まれてやっているがすごく大変だとおっしゃっていた。そういった長野市の状況を、把握していれば情報を共有願いたい。

【オブザーバー】

長野市で特徴的なのは、子供たちが自身の興味関心に応じて、やりたい活動選択できる環境を整備することが重要として、コーディネーターや指導主事が検討会議や説明会等を各学校で行っている、ということがある。受け皿としては総合型地域スポーツクラブ、競技団体、プロスポーツチームがあり、特に令和5年度についてはフットサルチームのポアールズ長野を受け皿にして、市のスポーツ課が調整をとりながらやってきた。さらに、随時ヒアリングを行って、地域移行の現地説明や、課題共有を図ったとのこと。また、スポーツクラブの検索サイト「さがスポNAGANO」を運用していて、人材バンクとは異なるが、例えばバスケットボールをこんな条件でやりたいとなると、長野市が抱える受け皿が紹介されていて、そことマッチングする。サッカー部の地域移行推進では、サッカークラブへの自立参加が可能となるよう、循環バスの運行を実証した。それらの結果、長野市は令和7年度末までの地域移行推進ということで決定し、来年の夏だったと思うが部活動の募集を停止、学校の方も保護者や生徒にその説明をして、それまでは部活動を保障するとしている。市立中学校全179の運動部の中で、107の運動部が地域移行を検討、推進し、そのうち54の運動部が、地域クラブとして活動を開始したという報告がされている。詳しい情報は、6月の中旬以降に県のホームページで出す予定。

(3) 令和6年度佐久市立中学校 運動部活動の地域移行について
資料4、5について事務局より説明

【委員】

剣道の方では、佐久地区剣道連盟の中に組織を立ち上げて、2年前から少しずつ検討を進めており、資料に書いてある通りの方法で進めて行く。剣道の人口調査を行い、佐久市内に剣道をやっている方が何人いるのかを把握しながら進めているが、どういう団体があり、どんな活動をしているかを、協会などトップになるところが把握しないとなかなか厳しいと思っている。専門部会を3ヶ月に1回開催としているが、剣道連盟の方で全て進めていくよう考えている。一番懸念されているのが指導者の確保、講習会の実施、それと場所の確保。なるべく佐久の中心に集まれるよう、県立武道館を減免利用したいと考えていたが厳しい状況なので、総合体育館の方もお借りできればと思う。剣道は人数が少ないので、各学校の方に通知等しながら、保護者への周知行い、新人戦が終わった10月ぐらいから徐々に進めていこうと考えている。

大会運営については、各クラブチーム等の保護者の皆様に、ご協力いただいている大会もあり、土日であれば協力いただける方が多いので、心配ないと思う。公式戦についても、審判のできる指導者、経験者の学校の先生たちがいるので、協力していただいと考えている。

【委員】

バレーボールについては、3年生が引退して代が変わった今年度の8月、9月あたりからスタートする予定で動いている。男子については佐久市内3校あるので、そこで一つ。女子については、望月と浅科、浅間と佐久東、野沢と中込と臼田でそれぞれ一つの地区として活動を考えている。実際に休日の活動が始まってくると、練習試合等で外に出る、ということもあるので、弾力的に調整しながら活動ができるよう、活動のベースを各中学校単位とする。ただ今後は生徒数、部員数の減少等に伴って、合同チームなどを中心にしていくことも検討が必要。指導者等については、指導のあり方、指導者育成という視点と大会運営のための審判員の育成の視点から、学校の先生方も含めて佐久平バレーボール協会の方に入っていただくというのを大原則にしている。

昨年度も話をしたが、試算によると大体年間で100万円を超えるお金を、保護者からトータルで集めることになり、協会内で扱うことは正直苦しい。税金等の関係もあり、佐久平バレーボール協会は、市から地域移行の活動依頼をされて協力をしていく立場であるということを考えると、全部協会内でやってください、というのは厳しく無責任。協会のできることは指導者の育成協力、指導のあり方などで、協会ではできない部分については、市の方で行ってもらう必要がある。

その他、今後のスケジュールとしては、各学校の保護者代表を交えて会議を行って、指導者の選定を行った上でスタートをしていく予定。

【委員】

サッカーについては、現状ほとんど進んでいない。サッカーは年代別で動いているので、各クラブ、スポ少の延長という形で考えないと、おそらく指導者を派遣し指導することができない、というのが何人かと話した中での結論。我々は基本的にクラブやスポ少で動いているので、中体連との関わりってというのがほとんどなく、大会自体をやることはできると思うが、普段の指導などは中学校からこういった形で依頼を受けて動けばいいのか、学校とこういった形で連携をとればいいのか、というのがよくわかってない状況。

【委員】

バスケットボール協会として地域移行に向かってどうするか、という検討までには至っていない。バスケットボール協会、佐久サッカー協会に倣って、中体連と地域クラブを別々にしていこうというのが全日本バスケットボール協会の方針で、バスケットボールの場合は部活動とクラブの両方所属することができ、中体連の大会にも、クラブの大会にもエントリーすることができ、過渡期でもあることから非常に複雑になっている。現状では、クラブチームは、男子がこの地域に4チーム、女子は8チームあり、それぞれの中学校のやりたい子たちが部活動もやりながらクラブチームにも所属している。地域移行になった場合に、そのクラブ活動が日曜日にあったとすると、残ったクラブに所属していない部活の人たちが、果たして休日の部活動に出てくるのか、というところがある。中学校単位で部活動を休日に移行できるかというところが、大きな課題。意欲ある指導者はもう既にクラブを独自に立ち上げて始めているので、さらに部活動を見てくれる指導者をどうやって集めるのかも課題である。今は小学生の時代から色々な地域の人たちがクラブに所属するようになって、佐久での活動に上田市から通ってきて所属している子どもたちもいて、そういった状況が中学でも続いている中、中学校単位で休日地域移行がスムーズにいくのか、将来はどういう形がいいのか見えず悩んでいる。部活動の方を中学校単位で行い、残った子供たちでやっていけるのか、複数の学校の中でクラブ活動を残すような形もありなのかとは思っているが、人材なども課題で剣道のように地域で束ねていくのが難しい。

(4) 質疑・意見交換

【委員】

まず資料3のIVスケジュールに、「休日部活動の地域移行完了」と書いてあるが、これは強行するつもりでいるか、それとも今の課題を踏まえて、国の方針の令和7年度までで評価していくのか。それと、今指導している皆さんの、関係する保護者も含めて指導者の人たちの意見の集約はやるのか。あるいは今後こういった場で、話し合いができるのか。学校関係者と、一部の選ばれた委員だけの話し合いの中では、相当無理があると思う。すべての教員、それと皆さんが本気になって考えなければ、一つの方向に向かないと思う。特に学校の先生方は不安があると思うし、学校長さんもどんどん変わっていく。現場を本

当に把握している人間は誰なのか、そういった部分が見えてこない、課題が多すぎて不安である。指導者のお金の部分についてはかなりシビアに考える必要があり、それから指導者が変わることによって、主役の子供たちがどれだけの影響を受けるかといった、見えない課題は多くあると思う。

【事務局】

移行完了については、国の方が令和7年度、県は令和8年度を目途にということをやっている、私どもの方も完了という言葉が適切かどうかということはあるが、国の目標と合わせてやっていきたい。部活毎、競技毎に、組織整備の話からはじまり課題等が違う。これを令和7年度末で区切り、できた、できなかった、で終わりということではないので、当然この地域移行の目標に向かって、それぞれの活動の中で移行を進めていく。現状の部活をこのまま全て100%同じように地域に持っていくことができるとい部分と、変革の中で新しいことを考えてなければという部分を改めて感じている。適切な子供のウェルビーイングから始まって教職員、地域の方々のウェルビーイングが、全部一致するのか不安なところもあるが、子供にとって何がよりよいのかを一番大切しながら考えていきたい。

【副会長】

スポーツ協会には、それぞれ競技団体があるので、それぞれの競技団体の会長さん、責任を持てる方と協議を重ねたいと思っている。クラブチーム、総合型クラブ、競技団体の皆さんたちと連携をとって行かなければ、これは達成できないと思う。それとバスケットでは、クラブチームがいくつかできていて、優秀な選手だけ全部集めてしまって他の中学部活動関係はもう人数が集まらないという現状も聞いているので、その辺も考えていきたい。

もう一つは環境作りで、休日だけでなく平日もあることなので、とにかく企業に協力してもらわなければ、おそらくこれはできない。そういうことを考えると企業との協力が大事だと思う。佐久市では消防団の関係でも各事業所の協力をいただいているので、我々もそういうことを考えて、企業との協力が第一だと思っている。

【委員】

佐久レーレルコールという地域の合唱団で役員をやっているが、この合唱団は元々佐久教育会の中に所属している合唱団だったが、7年前に佐久教育会から離れて、生涯学習の一つの場所として再出発したという経緯がある。

中学校の部活動としては合唱と吹奏楽と二つあるが、この地域としての受け皿を考えたときに、合唱は県の創造館を舞台とした少年少女合唱団、そして割と最近出来たコスモホールとの関係での合唱団と二つある。合唱に所属している生徒の人数を見ると、全学年で42名、各学年平均でいくと14名となるので、希望者の受け皿になり得るのではないかと。吹奏楽の方は、合計すると174名。これはだいぶ人数が多く、平均しても各学年55名となるので、合唱団のような受け皿はないと思う。例えば一般の佐久吹奏楽団や佐久室内オー

ケストラ、そういう中に中学生が入っていいのかは疑問。

それから、活動目標はコンクール、またはそれぞれの学校での文化祭やアンサンブルでの演奏の二つになると思うが、資料 3-1 のⅡ(3)の活動内容を見ると、部活動と地域クラブ両方に所属しているとそのどちらも出られる、となったときにどちらの団体で参加するか。これは音楽関係については、ほぼ学校単位で参加するようになると思う。指導者については、少なくともコンクールの7、8月までは先生方となるケースが多くなるのではないかと。また、合唱などは一緒に活動する場を設けてやっていくってことで休日地域移行に向けて具体的に進められるのではないかと。

【会長】

佐久レーレールコールは、大人だけという縛りがあるのか。

【委員】

合唱は声の関係があるので、高校生以上としているが、かつて中学生も私達の定期演奏会で一緒にステージに立つ、ということはあった。ただ一緒に活動することは、できないことはないが、活動する曜日が土日とは限らないのでそこはケースバイケース。

【委員】

先ほどのバスケットボールの話があったが、本校の指導者も、本校の部活動を見ながら、自分のクラブチーム持っており、野沢中女子バスケットボール部のほとんどの子がそのクラブチーム入って、とても熱心に練習し地域移行に向けての試行のような形で取り組んでいる。子どもたちのことを一番に考えると、やりたいものを思いっきりできるという形を作ってあげることが、一番必要だと思っている。規模の大きい中学校は、割と自由に活動を選択できるが、小さい中学校では、やりたくてもできない。本校では男子バレーがないので、男子バレーをやりたいという男の子が1年生に入ってきたので、中込中学校にお願いをしている。勝負云々よりも、本当にやりたいスポーツをできるという形を作ってあげることがいいだろう、そのための試行をいろいろやってみて、お金の面、会場の課題などがあるが、教育委員会の皆さん中心に考えていき、子どもたちの活動の場所を作りたい。

【委員】

方針の概要版を出していただき、本当に方向性が前回よりも見えてきたと思うが、なかなかしっくりこない。方針の中の運営団体、受け皿の部分が定まらない。様々な競技団体や地域の実情に応じて、それぞれできる範囲で行っていくというところが続いていく限り、皆さんがどうしていけばいいのか、すごく悩むのではないかと。

部活動は学校が教育活動として、色々な課題もありながら、競技団体、連盟やそれから協会の皆さんの協力を得ながらやってきた。このような状態から地域へ移行ということは、競技団体、連盟、協会の方たちをお願いしていくという形になり、今後は大会運営等については、逆に学校が協力していくような形になっていくのではないかと。お世話になってき

た連盟、協会の皆さんたちに、それを全てお願いします、というわけにはいかず、運営団体を明確にしていく必要がある。ただ地域移行を受けるには、ある程度保障が必要になってくると思うので、こういうことが課題、ということを出し合えるような会合が必要だと感じた。

【委員】

従来の部活動に縛られない新しい形を考えていく必要がある、という話があったが、その部分とても大事。それが保護者や子どもたちに本当にしっかり伝わっているか、というところは心配で、その説明が本当に大事になるかなと思う。

もう一つは、佐久レーレールコールの関係で、合唱吹奏楽の方についてのお話あったが、特に吹奏楽、コンクールや文化祭に向けての選曲が、学校ごとに違っていたりするので、それをどっか1ヶ所に集約しても、音の質の問題、楽器の運搬などいろいろあるので、全部で一緒にやるのは、不可能に近く、とても苦しい状況だなと思う。令和7年度末までに地域移行完了できたらと思うが、どんな単位で集まって、いつ練習するのかといった複雑なところを解決するのに時間がかかって、うまくいかなかったときには、部活動指導員は継続で考えていってくれるのかとても心配で、部活動指導員になっていただける方を探すのは難しいと思う。また、今までの労基法の40時間上限まで働いている人は、指導者になれませんが、教員も同じ立場なので、指導員さんのところも可能としないか、とても苦しいことになるのではないかと。

【委員】

本校の部活動の現状だが、少子化の影響が年々増加しており、今年度女子バスケットボール部が浅科中学校と合同チームを組んで、大会の方に出場という形になっている。また男子バレーボール部は、浅科中学校から1名生徒が加わって、拠点校部活という形で活動しており、サッカー部はないので、サッカー部がある浅科中学校でお願いをしている生徒もいる。伝統の剣道部については、部活動指導員の方に非常に熱心に指導いただいているが、今年度1、2年生の部員がおらず、3年生3名が引退してしまうと、一旦新人戦以降は活動休止という状況となり、来年度以降の部員確保が非常に課題。そういった観点からも地域移行で、地域に繋げていく必要を非常に感じている。

【委員】

佐久市スポーツ推進委員会として協力ができることの一つは、新設される佐久市人材バンクで、それぞれの持っているものをどんどん協力できたらと思っている。長年定員が少なく、スポーツ推進委員の数が減っていたが、今年度2名の方を増やすことができることになったので、地域の中に埋もれている人材をどんどん拾い上げていく、その役割ができればと思っている。

【委員】

アンケート調査の中で大変気になったことが、部活動の地域移行について、中学生が最も認知度が低く、情報不足による迷い不安が垣間見えるという部分で、私も本当にこれにはっとした。実施時点から認知度は上がっていると思うが、このアンケート結果を見て、一番の主体であるべき中学生が知らないということは、ちょっと残念である。

【委員】

特に熱心にやっている指導者、生徒たちは、気になることもあると思うが、逆に部活動はなくてもいいと思う人たちもいる現状がある。少し前からこの会議で方針が示された中で、私が所属しているバレーボールは、心配しながら地域移行が少し進んでいるが、バスケットボール、剣道などは、もう少し形として出してきてもらいたい。周りの進捗を伺いながらではなく、こうやりたいという形でやっていかないとバラバラになっていく心配にもなる。

【委員】

初めて市町村単位のこういった会議に参加したが、佐久市が思ったよりもずっと素案もできていて、この部活動のことに進んでいることに驚いた。この部活動の移行に関しては、ある意味正解がないというか、県や国から指針が示されても、やはり地域や学校単位によって、規模も持っている部活動も違うので、こうしなければという答えがないものだなというふうには思っている。その中で、どうしたら一番いい形が取れるかという、やはり関係者が集まりそれぞれの立場で話し合っ、試してみて修正をしていく、ということ繰り返していくしかない。そのためには、実際に指導者として立たれる方々も招いて、いろんな方面から意見を出し、話し合いがなされていけば、さらに具体的に良い方向に向かっていくのかなと思う。

6 その他

(1) 令和6年度組織改正について

事務局より口頭説明

7 閉会